



赤穂の歴史を調べよう！

あ こ う し れ き し ぶ ん か き ほん こ う そ う
赤穂市歴史文化基本構想
ガイドブック



赤穂市歴史文化基本構想は、みなさんの身近にある歴史的なものを、「歴史文化遺産」としてできるだけ広く捉え、まちの歴史を豊かにし、まちづくりに役立たせていくための手引きです。

地域の歴史を調べるときに、ぜひご活用ください。

平成30年6月
赤穂市教育委員会

赤穂市歴史文化基本構想のつかいかた

赤穂市歴史文化基本構想は、^と図書館や^{こう}公民館で^{じっ}実際に読んで調べることができるほか、インターネットのWebサイトでも調べることができます。

本

で調べる方法

▶▶ 市内の図書館や公民館で読むことができます。

インターネット
で調べる方法

▶▶ <http://www.ako-hyg.ed.jp/bunkazai/rekishibunka/>にアクセス！



赤穂市歴史文化基本構想の内容

赤穂市歴史文化基本構想は、7章からなっており、赤穂市の歴史文化に関する^{がい}概要を学べるほか、^{しょう}詳細な情報がデータベースとして^{おさ}収められています。

赤穂市歴史文化基本構想の構成

第1章 (1～12頁)

赤穂市歴史文化基本構想策定にあたって
この構想の背景や目的・経緯などを述べています。

第2章 (13～38頁)

赤穂市の概要
赤穂市の自然や地理・社会環境や関連法令について、まとめています。

第3章 (39～72頁)

赤穂市の歴史と文化
赤穂市の現代までの歴史を概説するとともに、歴史文化遺産の調査研究史を整理しています。

第4章 (73～186頁)

地域の歴史文化
市内を9地区に分け、それぞれの地域の歴史文化を紹介しているほか、市域全体にわたる歴史文化も掲載しています。

第5章 (187～238頁)

赤穂を代表する歴史文化
地域の歴史文化から整理した、赤穂を代表する歴史文化を紹介しています。

第6章 (239～250頁)

歴史文化を保護・活用するために
将来にわたって赤穂市の歴史文化を保護・活用するための方針をまとめています。

第7章 (251～297頁)

資料編
指定文化財や刊行物一覧、年中行事やアンケート調査結果などを掲載しています。

地域の歴史を調べるには？

第4章 地域の歴史文化

(73～186頁)

地域の歴史文化

を調べてください！



各地区ごとに、^{がいよう}歴史の概要や^{かいせつ}歴史文化遺産の解説、^{とくちょう}特徴のある歴史文化を紹介をしています（下は尾崎地区の例です）。

地区の概要

尾崎地区

概要

歴史

地理

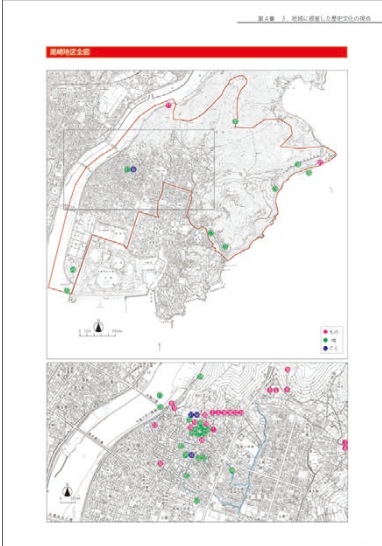
産業

交通

観光

種別	名称	所在地	概要
史跡	尾崎神社	尾崎町1丁目	尾崎神社は、尾崎地区の中心に位置し、尾崎の守護神として信仰されている。創建は不明だが、古くは尾崎の中心に位置していたとされている。尾崎神社は、尾崎地区の中心に位置し、尾崎の守護神として信仰されている。創建は不明だが、古くは尾崎の中心に位置していたとされている。
史跡	尾崎神社	尾崎町1丁目	尾崎神社は、尾崎地区の中心に位置し、尾崎の守護神として信仰されている。創建は不明だが、古くは尾崎の中心に位置していたとされている。
史跡	尾崎神社	尾崎町1丁目	尾崎神社は、尾崎地区の中心に位置し、尾崎の守護神として信仰されている。創建は不明だが、古くは尾崎の中心に位置していたとされている。

歴史文化遺産の位置図



歴史文化遺産の解説

No.	名称	所在地	解説
1	尾崎神社	尾崎町1丁目	尾崎神社は、尾崎地区の中心に位置し、尾崎の守護神として信仰されている。創建は不明だが、古くは尾崎の中心に位置していたとされている。
2	尾崎神社	尾崎町1丁目	尾崎神社は、尾崎地区の中心に位置し、尾崎の守護神として信仰されている。創建は不明だが、古くは尾崎の中心に位置していたとされている。
3	尾崎神社	尾崎町1丁目	尾崎神社は、尾崎地区の中心に位置し、尾崎の守護神として信仰されている。創建は不明だが、古くは尾崎の中心に位置していたとされている。

歴史文化遺産の解説

No.	名称	所在地	解説
1	尾崎神社	尾崎町1丁目	尾崎神社は、尾崎地区の中心に位置し、尾崎の守護神として信仰されている。創建は不明だが、古くは尾崎の中心に位置していたとされている。
2	尾崎神社	尾崎町1丁目	尾崎神社は、尾崎地区の中心に位置し、尾崎の守護神として信仰されている。創建は不明だが、古くは尾崎の中心に位置していたとされている。
3	尾崎神社	尾崎町1丁目	尾崎神社は、尾崎地区の中心に位置し、尾崎の守護神として信仰されている。創建は不明だが、古くは尾崎の中心に位置していたとされている。

地区の歴史文化の紹介

9. 植田とともに一浅野家が開いた植田

解説

地区の歴史文化の紹介

10. 赤穂藩と尾崎

解説

第4章ではこのほか、^と地域を越えた歴史文化も紹介しています。第5章では、こうした歴史文化をまとめるかたちで、^{あかほ}赤穂を代表する歴史文化として6つのストーリーをつくっています。

地域ごとの特徴ある歴史文化を取り上げたもの。

地域に根差した
歴史文化 26件

地域を越えた
歴史文化 10件

赤穂を代表する
歴史文化 6件

地域を越えた視点で歴史文化を取り上げたもの。

地域ごと、地域を越えた歴史文化を、大きなストーリーにまとめ直したもの。

赤穂市の歴史文化の一覧

赤穂市歴史文化基本構想でまとめた歴史文化を紹介します。

第4章 地域に根差した歴史文化

地域ごとの特徴ある歴史文化を取り上げたもの。

赤穂・城西地区の歴史文化

1. 赤穂義士ゆかりのまち
2. 城をつくる－赤穂城前史－
3. 旧赤穂上水道
4. 現代に息づく城下町－絵図をみて歩けるまち

塩屋地区の歴史文化

5. 塩づくり発祥の地
6. 備前街道

西部地区の歴史文化

7. 播磨と備前の国境
8. 開拓ものがたり

尾崎地区の歴史文化

9. 塩田とともに－浅野家が開いた塩田－
10. 赤穂藩と尾崎

御崎地区の歴史文化

11. 塩業の歴史を今に伝える－東浜塩田－
12. 御崎の信仰
13. 景勝・赤穂御崎

坂越（坂越湾周辺）地区の歴史文化

14. 古代の海人と秦河勝伝説
15. 港町・坂越
16. 伝承と信仰の山めぐり

坂越（千種川流域）地区の歴史文化

17. 古代の謎
18. 村ごとの社寺と伝承

高雄地区の歴史文化

19. 高瀬舟と赤穂鉄道
20. 農業用水と赤穂城下の水甕
21. 里山の景観と村々の社寺

有年地区の歴史文化

22. 東西・南北の交通－近世山陽道と千種川－
23. 古代の遺跡めぐり－文化財の宝庫－
24. 夢のあと－山城と山岳寺院の風景－
25. しぶらの里－豊かな農村風景－
26. 有年の先人に出会う旅

第4章 地域を越えた歴史文化

地域を越えた視点で歴史文化を取り上げたもの。

27. 陸路・水路・海路の交通

28. 旧赤穂上水道をたずねて

29. 中世城郭と山岳寺院

30. 塩の道

31. 秦氏・渡来人伝承

32. 江戸時代の赤穂を歩く－『播州赤穂郡志』の世界

33. 秋祭りと獅子舞

34. 遺跡の宝庫

35. 赤穂のむかしばなし

36. 地名の生きるまち

第5章 赤穂を代表する歴史文化

地域ごと、地域を越えた歴史文化を大きなストーリーにまとめ直したもの。



1 千種川と瀬戸内海



2 まちなみと風景



3 塩の国



4 赤穂事件と忠臣蔵文化



5 まつりといのり



6 海の遺跡、山の遺跡

赤穂・城西地区の歴史文化

現在の赤穂市の中心となる地区。千種川河口部にあって、古代末から中世にかけて陸地化した場所にあたります。

中世には「加里屋古城」が築かれるとともに、豊臣秀吉の毛利攻めに伴って街道が整備されたと伝わります。江戸時代のはじめのころに「搔上城」や旧赤穂上水道が築かれて、城や城下町としての形ができ、寛文元（1661）年の赤穂城完成によって、現在のまちなみとほとんど変わらない景観ができました。

江戸での刃傷事件を受けて赤穂浅野家は断絶、森家による支配に代わると、侍屋敷が畑地になるなど衰退しましたが、現在も城下町の名残が垣間見られ、歴史的な景観を見ることができます。

歴史文化の視点

1. 赤穂義士ゆかりのまち
2. 城をつくるー赤穂城前史ー
3. 旧赤穂上水道
4. 現代に息づく城下町ー絵図をみて歩けるまち



塩屋地区の歴史文化

古代から塩づくりが行われていた地区。古文書や発掘調査の成果から、平安時代には東大寺の荘園として塩づくりが行われていたことがわかっています。

江戸時代になると、西浜塩田、戸島新田といった大規模な開発が行われ、現在のような地形ができました。塩屋や新田地区は、こうした塩業や農耕で働く人々が住んだまちであるとともに、赤穂城下町から西の備前国（現在の岡山県）へとつづく備前街道沿いのまちでもありました。塩屋荒神社の秋祭りが、その賑わいを偲ばせます。

昭和 44（1972）年に塩田が使われなくなると、広大な跡地は工業用地となり、現在の赤穂市の経済を支えています。

歴史文化の視点

5. 塩づくり発祥の地
6. 備前街道



西部地区の歴史文化

江戸時代に大規模な干拓が行われる前は、海が深く入り組んだ地形を呈しており、主に漁業を営んでいました。江戸時代～近代になると大規模な干拓が行われて塩田や水田が整備され、現在のような平地が生まれたのです。

福浦地区は、昭和 38（1963）年に合併するまでは岡山県に属していました。そのため市内の鷓和地区に、かつての播磨国と備前国の境界石が残されています。

西端にあたる古池地区では、江戸時代から近代まで続けられた古池塩田が、現在も跡地として残されています。

歴史文化の視点

7. 播磨と備前の国境
8. 開拓ものがたり



尾崎地区の歴史文化

千種川の東岸、宮山の麓につくられたまちです。宝崎神社にあるノット岩の存在から、このあたりはかつて流紋岩の岩盤が露頭していたと推定され、その上に千種川の運ぶ土砂が堆積して陸地ができたと考えられます。

宮山の麓にある赤穂八幡宮は、江戸時代に鷲和の銭戸から遷されたともいわれる神社で、東浜塩田のはじまりを示す神社でもあります。尾崎は東浜塩田で働く人々を中心につくられたまちであり、江戸時代前半には、当時最新式の入浜塩田を大規模に導入して大きく栄えました。

赤穂八幡宮の秋祭りは、その隆盛を物語るもので、古式の伝統を残す獅子舞や頭人行列などが有名です。

歴史文化の視点

9. 塩田とともに一浅野家が開いた塩田一
10. 赤穂藩と尾崎



赤穂八幡宮獅子舞



伝大石良雄飯寓地跡（おせど）



赤穂八幡宮

御崎地区の歴史文化

もともとは三崎新浜村といい、瀬戸内海に伸びる三つの崎から名付けられた景勝地です。伊和都比売神社は1,000年以上前につくられた文献『延喜式』にも記録がある市内唯一の式内社であり、歴史ある地区といえます。

御崎地区は、尾崎地区とならび東浜塩田で働く人々の村であり、平地を塩田とするため人々は山裾や斜面地に住みました。現在もそのまちなみは変わらず、「坂のまち」が残されています。一方、塩田が廃止された後、その跡地は新興住宅地として生まれ変わっています。

歴史文化の視点

11. 塩業の歴史を今に伝える一東浜塩田一
12. 御崎の信仰
13. 景勝・赤穂御崎



伊和都比売神社



赤穂市立美術工芸館園淵記念館



唐船山

坂越（坂越湾周辺）地区の歴史文化

全長約2kmの円弧を描く坂越湾と、その湾内に浮かぶ生島の存在は、坂越を天然の良港とし、また船の風待ち港として発展させました。さらに、千種川東岸から鳥井坂を越えて坂越湾へとつながる坂越大道（りょうこう）の存在は、高瀬舟による物資流通の拠点としての役割を果たしました。

坂越湾を見下ろす宝珠山には、大避神社をはじめとした神社仏閣が集中しており、江戸時代の港町としての景観が現在も残されています。大避神社は秦河勝を祭神とする神社で、古代の渡来系氏族であった秦氏に深く関連しています。その秋祭りは「坂越の船祭」として国の重要無形民俗文化財に指定されています。

歴史文化の視点

14. 古代の海人と秦河勝伝説
15. 港町・坂越
16. 伝説と信仰の山めぐり



妙見寺観音堂



大避神社



坂越の船祭

坂越（千種川流域）地区の歴史文化

北の高雄地区から南流してきた千種川が山にぶつかって大きく南西に迂回し、赤穂地区へと流れていく延長約3kmの範囲にあります。幾度となく洪水に見舞われた地区である一方、水稻農耕に適した土が運ばれた地区で、かつては「庄内」と呼ばれました。

かつての千種川は、「亀の甲」という石壁で堰き止められて、赤穂城下町の東に隣接して流れていましたが、明治25（1892）年の水害以後は埋め立てられて尾崎地区側へと流路が変更されるなど、川の影響を大きく受けた地区です。

地区内に密集する神社や寺院は、かつて数多くの村がそれぞれに神社と寺院を持っていたことの名残であり、現在もその景観が残されています。

歴史文化の視点

- 17. 古代の謎
- 18. 村ごとの社寺と伝承



遺孑山城跡



上高野銅鐸鑄型片



春日神社 (南野中)



高俣山古墳群からの眺望

高雄地区の歴史文化

赤穂市を南北に流れる千種川が、北部の有年地区の平野を抜けて蛇行しながら河口部へ向かうまでの流域部分にあたります。

古くは縄文時代に人々が生活していたことが、高雄・根木遺跡の発掘調査から判明しており、弥生時代には定住が始まったようです。中世には山岳寺院として神護寺や安楽坊などが築かれており、「門前」の地名も残ります。

江戸時代、木津地区には大工の集住する村があって、旧赤穂郡内を中心として、木津大工の手による社寺建築が多く残されているほか、「木津」は、その地名から木材を集積して製材・加工のうえ、下流部から域外へ送る港として栄えたと推定されています。

歴史文化の視点

- 19. 高瀬舟と赤穂鉄道
- 20. 農業用水と赤穂城下の水甕
- 21. 里山の景観と村々の社寺



大鐘神社 (中山)



根木鉄橋基礎跡



切山隧道

有年地区の歴史文化

市面積の約40%を占め、そのほとんどを山林が覆う地区です。千種川をはさんで東西に長い平野があり、矢野川、長谷川、千種川が生み出す豊かな土地に、約10,000年前から人々が住み始めました。

本格的な定住は縄文時代後期（約4,000年前）と考えられ、弥生時代には多くのムラが営まれたほか、古墳時代にいたっては、200基以上の古墳が築かれています。さらに江戸時代になると、東西には西国街道が通り、高瀬舟による南北交通もあわせた交通拠点として、有年宿が栄えました。

有年地区は「しづら（彼岸花）の里」と呼ばれ、豊かな農村風景が色濃く残っています。

歴史文化の視点

- 22. 東西・南北の交通ー近世山陽道と千種川ー
- 23. 古代の遺跡めぐりー文化財の宝庫ー
- 24. 夢のあとー山城と山岳寺院の風景ー
- 25. しづらの里ー豊かな農村風景ー
- 26. 有年の先人に出会う旅



有年原・田中遺跡公園



高瀬舟灯台

27. 陸路・水路・海路の交通

山、川、海の豊かな自然に恵まれた赤穂では、古来よりこれらを活かした交通が発達しました。赤穂市北部の有年地区は、中近世の筑紫大道や西国街道の東西交通に加え、千種川の舟運「高瀬舟」が南北を往来しており、交通の拠点として栄えていました。

河口部には港町坂越、そして赤穂城下町がありました。赤穂の塩や年貢を運んでいた流通網は、高瀬舟からやがて赤穂鉄道へと変わり、その後は自動車による陸路交通に移っていきました。現在も、これらを偲ぶ景観が残されています。



千種川

28. 旧赤穂上水道をたずねて

江戸時代になり、陸地化が進んでいた千種川河口部に城と城下町を築くことになりました。そこで元和2(1616)年、約7km上流の山にトンネル(隧道)を掘削して上水の確保を行ったのが、旧赤穂上水道の始まりです。

その後、赤穂を治めた浅野長直は、

この水道を農業用水にも活用し、大規模な新田開発も行うなど、赤穂の水藝としての役割を果たしました。

この水道は昭和19(1944)年の近代的水道が整備されるまで使用され続けました。導水路は、現在も農業用水として利用されています。



木津取水井堰跡

29. 中世城郭と山岳寺院

鎌倉時代から室町時代の播磨は、戦乱に明け暮れた時代でした。市内には、陸上交通の要であった有年地区や、海上交通の拠点であった坂越地区に山城が多数築かれたほか、当時急速に陸地化していた河口部には加里屋古城が築かれるなど、赤穂が戦略的な拠点とな

り始めていました。

しかし、この時代は祈りの時代でもありました。赤穂には特に有年地区を中心として複数の山岳寺院が築かれており、現在もその趣を伝えています。



尼子山城跡

30. 塩の道

赤穂では、弥生時代から土器製塩が行われていました。その後、塩田を構築する技法が確立してくると、晴れの日が多く、遠浅の海が広がり、干満の差が大きいなどといった条件を備えた、瀬戸内海沿岸が塩づくりに最も適した地域として栄えたのです。

平安時代にはすでに東大寺の荘園として塩田が経営され始め、江戸時代には大規模な塩田干拓が行われるなど、一大生産地として有名であった赤穂では、江戸時代から近現代にいたる生産、販売、流通に関する「塩の道」をたどることができます。



廻船模型(赤穂市立歴史博物館)

31. 秦氏・渡来人伝承

坂越の生島に漂着した伝説をもつ、聖徳太子の重臣、秦河勝。旧赤穂郡(現在の赤穂市・相生市・上郡町)には、かつて秦河勝=大避大明神を祭神とする神社が約30社あったといわれており、現在も、市内でゆかりの神社として8社が確認できます。

赤穂には、平城宮木簡や古墳出土資料など、秦氏を代表とする渡来人に関する伝承、考古資料、古文書などが多く残されており、その深い関わりを予感させます。



生島古墳(伝秦河勝墓)

32. 江戸時代の赤穂を歩く－『播州赤穂郡志』の世界

享保12(1727)年、藤江熊陽(忠廉)によって記された『播州赤穂郡志』は、旧赤穂郡(現在の赤穂市、相生市、上郡町)における、主に中世以降の歴史を記した地誌です。テーマは、赤穂郡の庄郷、領主、城郭、町割・諸村、川筋、道筋、古城、古跡・古人、神社、仏閣、土産、

風俗に分かれており、昔の村、城や城下町の様子、地形、当時の神社仏閣などが、どのような姿であったのか、詳細に記されています。

約300年前に書かれた「現在」の記録。そこに記載された多くが、現在も残されていることに気づくことでしょう。



百目堤跡

33. 秋祭りと獅子舞

「獅子どころ」と言われる播磨地域のなかでも特に旧赤穂郡では獅子舞が盛んです。かつてはすべての地区の秋祭りに獅子舞があり、現在も25地区で行われています。

赤穂では、秋祭りの1ヶ月以上前から各地区で練習が始まり、幼児から大

人までが共に練習し、その結果、地区内において顔の見える関係が形成され、地域コミュニティが保たれているのです。また、それぞれの年に特別に選ばれる「頭人(当人)」と言われる制度なども、一部の祭りに残っています。



有年横尾獅子舞(八幡神社/有年牟礼)

34. 遺跡の宝庫

赤穂市は、その地形から山、川、海の恵みを享受でき、さらに住みやすい瀬戸内型気候も相まって、古来より人々が生活を営んできました。その歴史は約10,000年前にまで遡り、縄文時代後期(4,000年前)には、市内各地で人々の生活痕跡が発見されています。

市北部には、弥生時代から古墳時代にかけて大規模な集落が営まれ、当時の中心的な地域でした。その後、中世頃に千種川が運んだ土砂によって市南部が開発され、赤穂城や城下町が建設されるなど、遺跡は地区の成り立ちを物語っています。



塚山6号墳

35. 赤穂のむかしばなし

市内各地に残る民話や伝承。これらは文字に記録されることなく、口伝えの物語として赤穂の人々の心に残されてきました。

つくられた時代がいつなのかはわかりませんが、内容は人々にとって理解を越えるもの、日常生活の教訓めいた

もの、また身近な歴史を偉人と結びつけたものなど、さまざまなものがあります。私たちは、こうした民話・伝承を通じて、当時の人々の生活や思考に思いをはせるとともに、今もその場に立つことによって、赤穂の歴史的蓄積に触れることができるのです。



周世坂峠地蔵(ととまの地蔵・枯れ尾花)

36. 地名の生きるまち

私たちが何気なく使う地名。実はこれらの歴史はかなり古く、中世に遡ると推定されるものも少なくありません。

私たちが日常的に地名を呼ぶことによって、未来への継承に一役買っていることを考えると、今も私たちが歴史のまっただ中にいることを実感させて

くれます。

特に赤穂では、江戸時代の事柄由来する地名や、塩田に関する地名が多く残され、近現代に成立した町名であっても昔の地名を採用したものも少なくありません。今も地名は生きているのです。



水尾跡

千種川と瀬戸内海

—豊かな自然にはぐくまれた文化—

瀬戸内海

赤穂は、清流千種川が瀬戸内海に注ぎ込む河口部のまち。千種川は、土砂を河口部に堆積させて文字通り赤穂の土地を創り出し育んだ一方、洪水によって赤穂の景観を一変させることもありました。

加えて千種川は、高瀬舟による南北交通の重要な流通ルートであったと同時に、東西交通にとっての難所であったため、そこに宿場町が形成される要因にもなりました。このように、千種川は赤穂の自然景観と歴史にさまざまな点で影響を与えてきました。

千種川が内陸のつながりを創り出したとすれば、瀬戸内海は、外の世界とのつながりを創り出したといえます。

波の穏やかな瀬戸内海は、九州から大阪に至る交通の大動脈であるだけでなく、江戸時代には西廻り航路が開発されて西日本の一大物流ルートとなっていました。常に外からの文化と触れ合う港町には、進取の気風が漂い、内外に新たな文化を培いました。

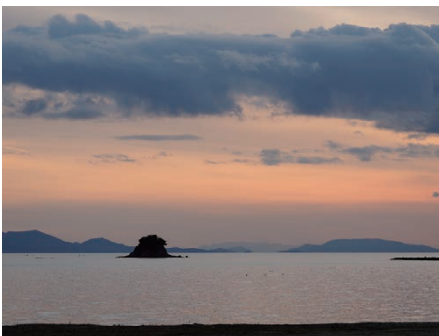
いまだ自然の景観を多く残す千種川と瀬戸内海は、多くの人々を魅了し続けています。



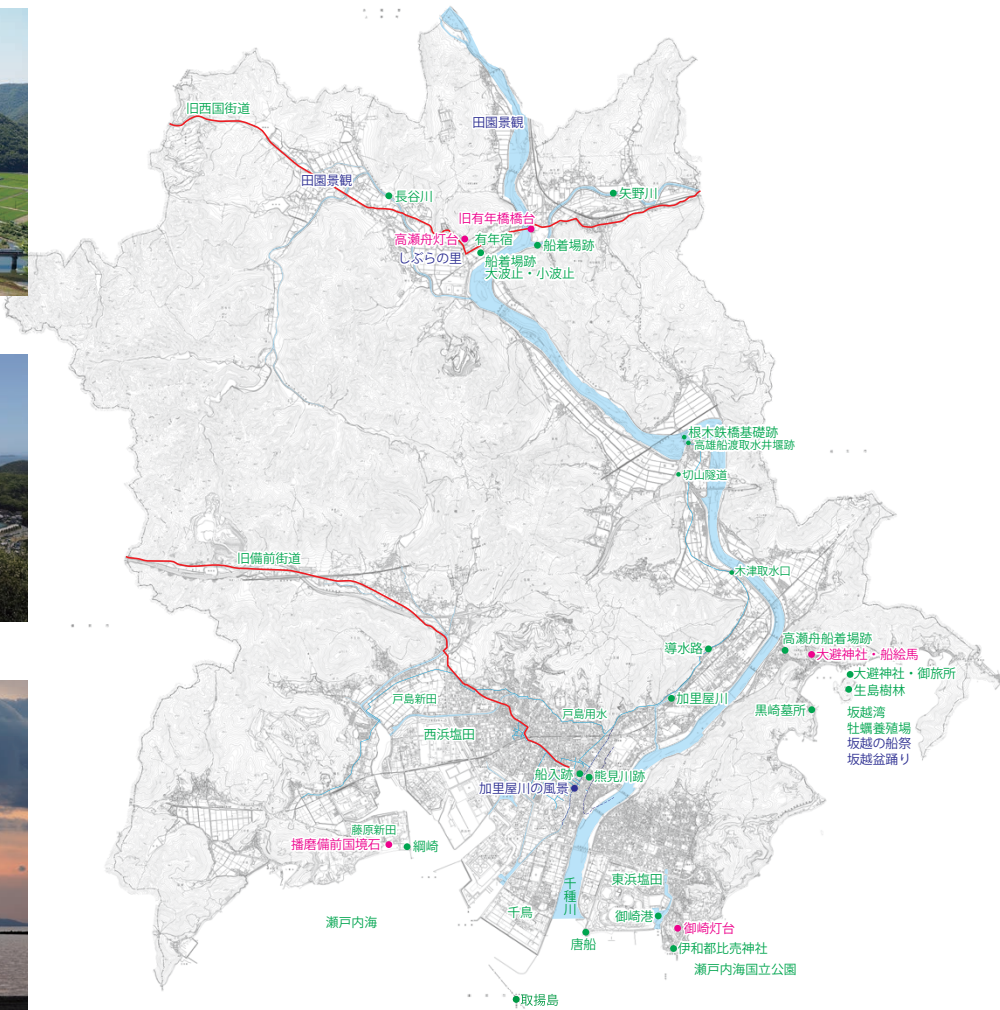
高雄山神護寺跡周辺からみた千種川



坂越湾と生島



御崎・取揚島



主な歴史文化遺産の分布



まちなみと風景

市街地全景

多島美を誇り、波穏やかな瀬戸内海や、清流千種川に抱かれた赤穂には、山、川、海それぞれに蓄積された歴史的なまちなみが形成されました。

市北部には、橋の架けられなかった熊見川（現在の千種川）の船渡沿いに宿場町「有年宿」ができ、現在もその一部が名残をとどめています。

市内を南北に貫流する千種川の沿岸には、かつて堤防に囲まれた村々が営まれており、富原、高雄、周世、高野など、常に千種川との関わりの中で形成

された景観が残されています。

千種川河口部には、赤穂城に隣接して城下町が形成されたほか、西の構えの一部を形成した塩屋、さらには、かつての備前街道沿いに成立した新田、そして塩田面積を最大限確保するため、斜面地にムラを営んだ御崎など、それぞれに特色のあるまちなみが保全されており、その景観に豊かな歴史性を感じることができます。



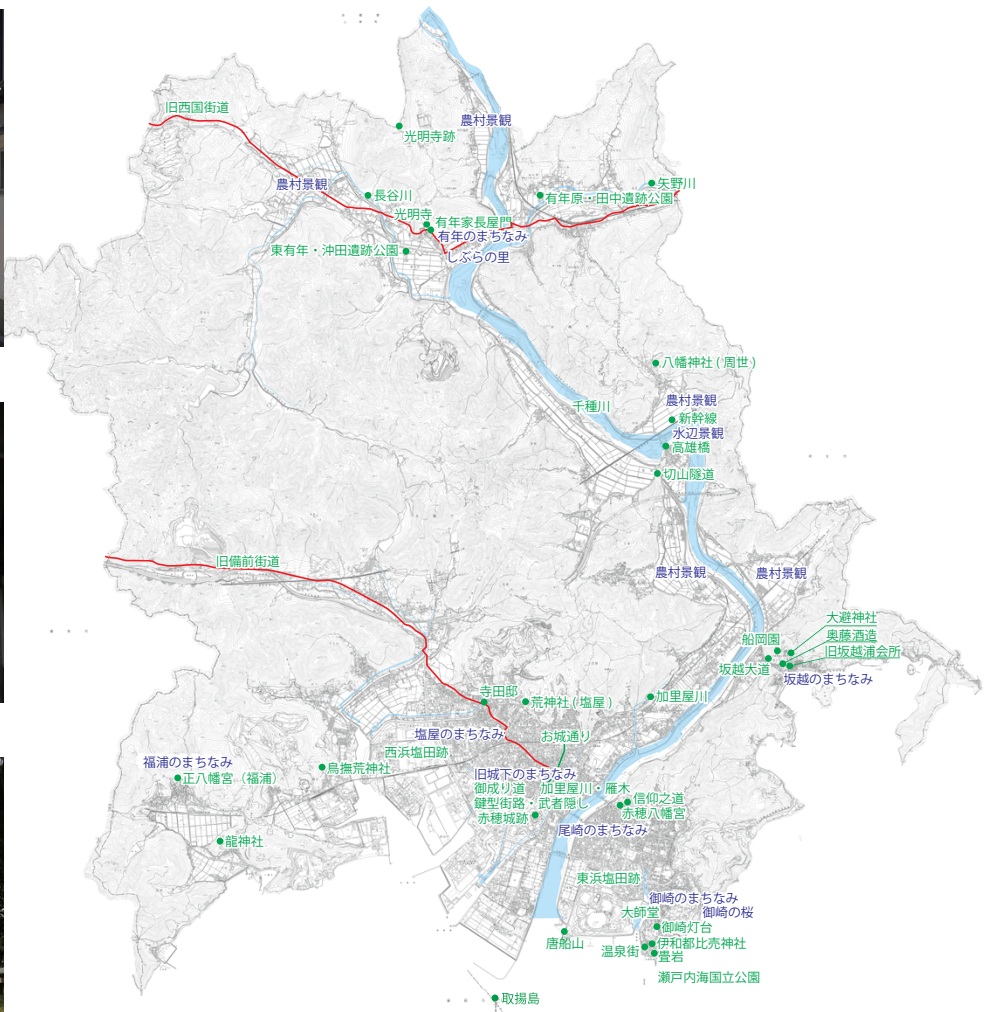
鍵型街路（赤穂城下町跡）



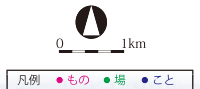
坂越のまちなみ



東有年・沖田遺跡公園



主な歴史文化遺産の分布





塩の国

—瀬戸内海のめぐみ、赤穂の塩—

塩の国

旧日本専売公社赤穂支局

塩田による製塩は、雨が少なく日照時間の長い温暖な気候が適しており、瀬戸内海沿岸では、江戸時代に「十州塩田」と呼ばれるほど、塩の一大生産地となりました。

なかでも赤穂は、弥生時代以来の製塩の歴史を持ち、古代には東大寺の塩荘園があったほか、江戸時代には「赤穂式」と呼ばれた入浜塩田を全国に広め、大坂では専売制を敷くなどしました。製塩は現在も

続けられており、長い歴史に裏付けられた「赤穂の塩」は今も有名です。

市内には、当時の水路（水尾）や堤防、製塩用具（国指定文化財）、旧日本専売公社赤穂支局（県指定文化財）などが今も残されているほか、県立赤穂海浜公園内には江戸時代から近代にかけての塩田が復元され、当時の製塩を間近に体験することができます。



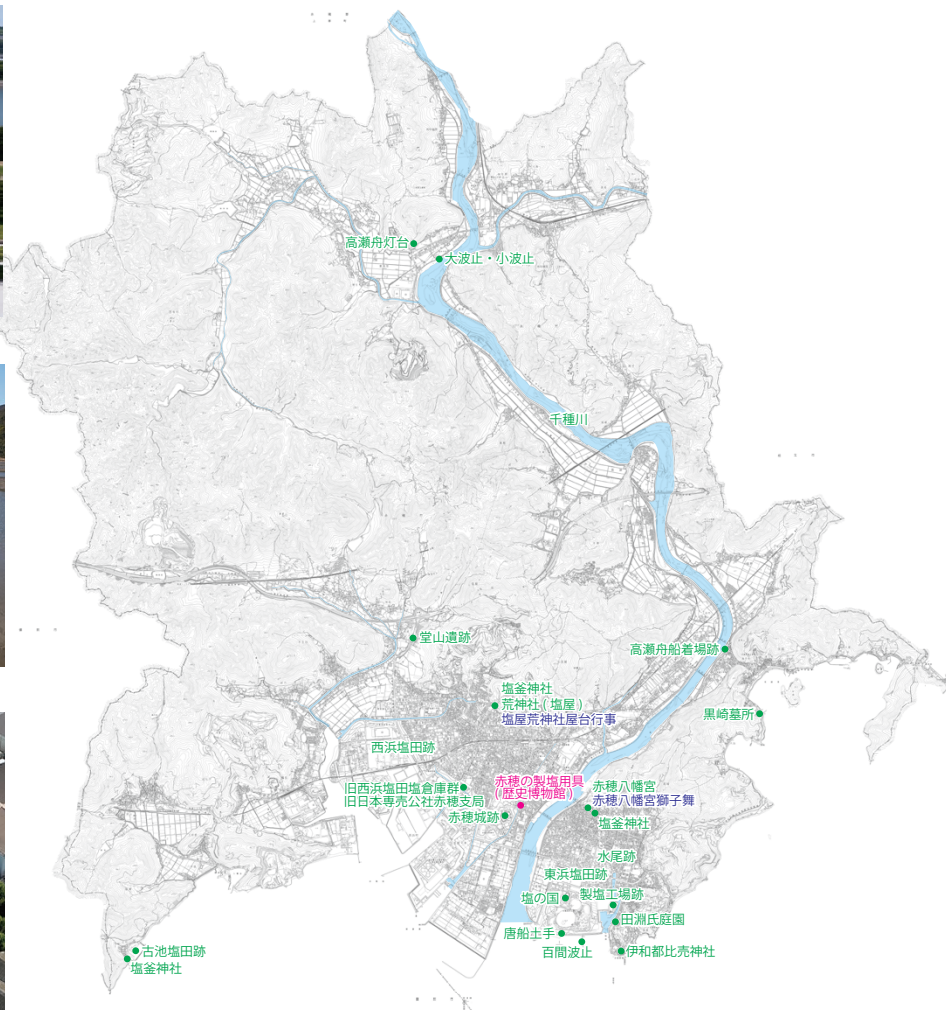
塩の国（兵庫県立赤穂海浜公園内）



古池塩田跡



旧専売公社赤穂支局周辺の塩業関係施設



主な歴史文化遺産の分布



赤穂事件と忠臣蔵文化

「義士討入」長安雅山筆「赤穂義士真朝」のうち（赤穂市立歴史博物館蔵）

天下泰平の世、元禄時代を騒がした大事件「赤穂事件」は、元禄 14（1701）年に、江戸城で赤穂藩主浅野内匠頭長矩が吉良上野介に斬りかかったことに端を発します。幕府の不公平な裁きを不服とし、1年 10 か月後に討入りを果たした旧赤穂藩士たちのことを当時の人々は褒めたたえ、人形浄瑠璃や歌舞伎の演目として「仮名手本忠臣蔵」が生まれました。

「忠臣蔵」の名で親しまれるこうした一連のストーリーには、史実のみならずさまざまな虚飾も加わり、日本人の心の拠りどころになりました。現在では演劇や映画など文化としての広がりを見せています。

赤穂市には、「赤穂義士」を生んだまちとして、その遺産が数多く残されており、その歴史のみならず赤穂義士のこころに触れることができます。



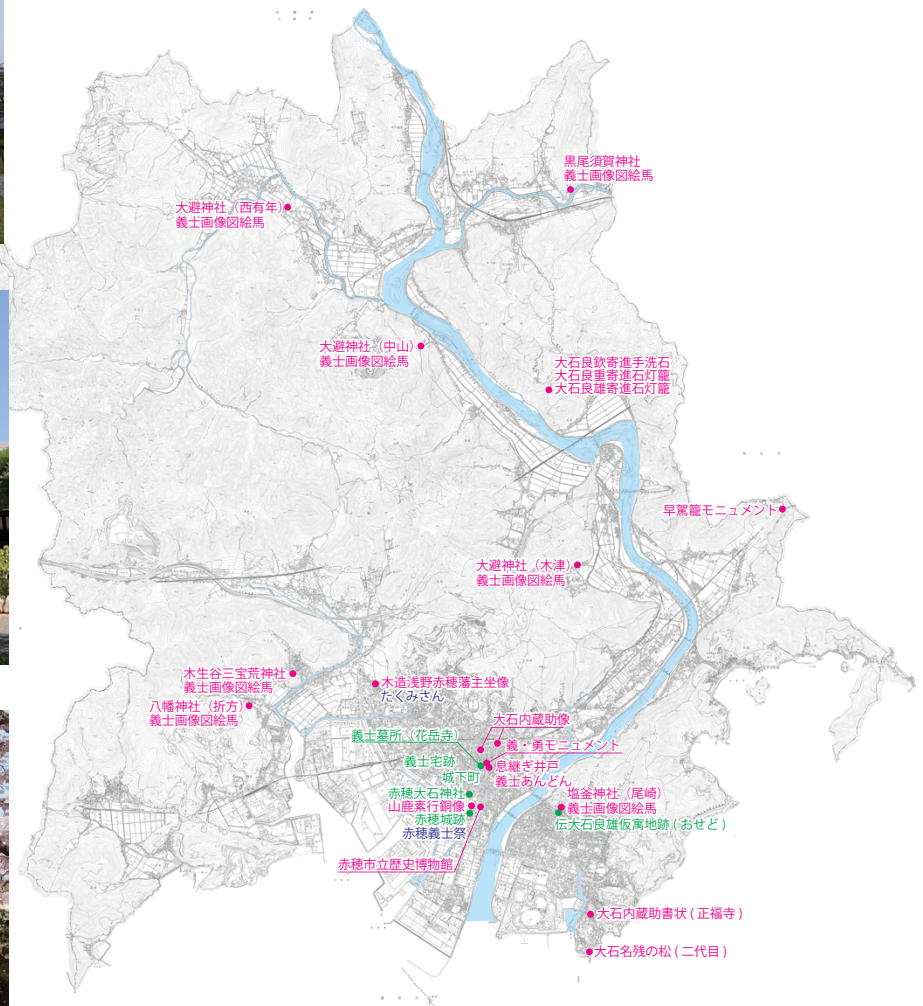
赤穂城跡二之丸庭園



花岳寺



伝大石良雄仮寓地跡（おせど）



主な歴史文化遺産の分布



凡例 ●もの ●場 ●こと

まつりといのり

—社寺周辺の風景—

赤穂八幡宮獅子舞の獅子頭



坂越の船祭

古くから、人々の生活には信仰が深く結びついていました。市内には歴史ある数多くの社寺が残されており、多くの場合、その周囲の景観も往時の雰囲気（おうじふんいき）を伝えています。

また各地域の神社で行われる秋祭りは、赤穂の特性をよく反映し、船祭や屋台など多種多様な神事が

行われているほか、「播磨は獅子どころ」とよくいわれるように、地域ごとに特色のある獅子舞が奉納されています。

秋祭りは現在も地域全体の行事として行われており、地域コミュニティの維持・形成にも重要な役割を果たし、継承への努力が現在も行われています。



八幡神社（周世）



塩屋荒神社屋台行事



光明寺



主な歴史文化遺産の分布



凡例 ●もの ●場 ●こと

海の遺跡、山の遺跡

— 埋蔵文化財の宝庫 —

みかんのへた山古墳と鍋島古墳 (撮影：出水伯明)

赤穂市は、山に囲まれた北部と、瀬戸内海に面した南部とに大きく分かれ、それぞれに古墳が分布します。

こうした古墳のほとんどは、発掘調査が行われていないため詳細はわかりませんが、海に面して立地する古墳は、農耕を営むための平野が狭いことから、

漁業集団のなかの有力者の墓ではないかと推定されています。一方、北部の古墳については十分に広い平野があり、農耕を生業として生活を営んでいた人々が生み出したものと考えられています。

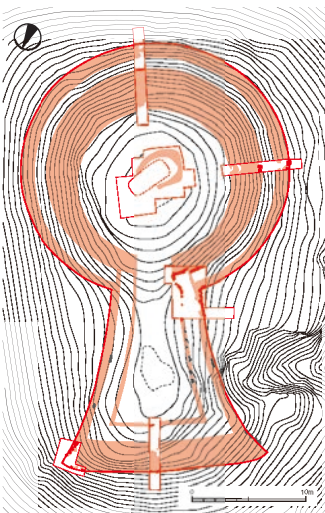
赤穂市には南北それぞれに独特の人々の生活があり、遺跡や古墳もこれらを反映しているのです。



尾崎・大塚古墳



赤穂市立有年考古館



ほうきやま
放亀山1号墳

東有年・有年権原地区の間の丘陵上にある古墳で、平成 29 年度の確認調査によって、市内初の方後円墳であることがわかりました。

出土遺物や古墳の形から、古墳時代前期前半（およそ 1,700 年前）の築造と考えられています。



主な歴史文化遺産の分布



凡例 ●もの ●場 ●こと

もっと詳しく知りたい方へ

赤穂市の歴史や民俗などを、もっと詳しく知りたい方は、下記のような書籍やWebサイトがありますので、ご活用ください。(主な書籍。図書館等で読むことができます。)

■赤穂市の歴史を知るには

『赤穂市史』(全7巻)

■赤穂城を知るには

各発掘調査報告書
各整備報告書

■忠臣蔵を知るには

『忠臣蔵』(全7巻)

■赤穂の民俗を知るには

『赤穂の民俗』(全11巻)
『赤穂のしごとうた・わらべうた』
『赤穂の昔話』(全2巻)
『坂越の船祭総合調査報告書』
『写真で見る赤穂の民俗』

■赤穂の塩業を知るには

『赤穂塩業史料集』(全7巻)

■石造物を知るには

『赤穂の石仏』
『赤穂の鳥居と狛犬』
『赤穂の石灯籠』
『赤穂の注連柱・百度石・手洗石』

■遺跡の発掘調査を知るには

各遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書

■地域の歴史文化遺産を知るには

『文化財をたずねて』(パンフレット)
『やさしい赤穂の歴史』
地区公民館が刊行している地域研究誌

■自然を知るには

『ふるさと赤穂の自然—海と陸と緑をたずねて—』
『赤穂の野鳥—自然に親しむために—』
『生島の植生調査報告—管理後10年後の現状』

■その他

『赤穂の地名』

■インターネットの調べ学習には

兵庫県赤穂市の文化財
(<http://www.hyg-ako.ed.jp/bunkazai/>)
赤穂城跡公式Webサイト
(<http://www.ako-hyg.ed.jp/bunkazai/akojo/>)

■実物をみるなら

赤穂市立歴史博物館
▶主に塩、城と城下町、赤穂義士、旧赤穂上水道について展示しています。

赤穂市立民俗資料館
▶市内の民俗資料を展示しています。

赤穂市立美術工芸館田淵記念館
▶市内の美術・工芸資料を展示しています。

赤穂市立海洋科学館・塩の国
▶自然科学、海、塩に関する資料を展示しているほか、復元塩田で製塩の体験ができます。

赤穂市立有年考古館
▶市内の考古資料を展示しています。

東有年・沖田遺跡公園
▶弥生時代～古墳時代の古代住居が復元されています。

有年原・田中遺跡公園
▶弥生時代の墳墓が復元されています。

赤穂市歴史文化基本構想ガイドブック

平成30年6月30日発行

編集・発行 赤穂市教育委員会生涯学習課
〒678-0292 兵庫県赤穂市加里屋81番地
TEL 0791-43-6962 FAX 0791-43-6895
印刷 中村印刷有限公司
〒678-0232 兵庫県赤穂市中広1359番地5
TEL 0791-42-2158